



鉄鋼事業部門

売上高

+13.2%

8,403億円

経常利益

+484億円

237億円

経常利益率

(—)

2.8%

2010年度の概況

2010年度の鋼材需要は、国内外における製造業向けの需要が総じて堅調に推移したことなどから、鋼材販売数量は、2009年度を上回りました。販売単価については、原材料価格が値上がりした影響などにより2009年度を上回りました。

鋳鍛鋼品の売上高は、造船向けの需要が減退したことなどから、2009年度を下回りました。

チタン製品の売上高は、需要家の在庫調整が進展したことなどにより、2009年度を上回りました。

以上の結果、2010年度の売上高は2009年度比13.2%増の8,403億円となり、経常損益は、在庫評価影響の大幅な改善もあり、2009年度に比べ、484億円増益の237億円の利益となりました。

	億円		増減率
	2009年度	2010年度	
売上高	7,420	8,403	+13.2%
経常損益	△246	237	—

TOPICS

最新鋭大型鍛造プレスによる航空機等鍛造品製造会社の共同設立

神戸製鋼は、日立金属(株)、(株)IHI、川崎重工業(株)と共同で、航空機・電力プラント向け大型鍛造品を製造する「日本エアロフォージ(株)(以下Jフォージ)」を2011年3月に設立しました。Jフォージは国内初となる能力5万トン級の最新鋭大型鍛造プレスを導入することで、国内では不可能であった大型鍛造品の製造を行い、これにより世界で需要拡大が見込まれるチタン等の大型鍛造品の国内での安定生産が可能となります。将来的には海外航空機メーカーにも鍛造品を供給し、広く世界需要にも応えていきます。当社として、Jフォージの生産開始に向け、本事業を強力に支援し、日本の航空機産業の発展に寄与していきます。

北米における自動車用鋼板事業の新プロジェクトについて

北米における自動車用冷延ハイテンの需要増に対応するため、米国United States Steel Corporation(以下USS社)との合併拠点「プロテックコーティング社(PRO-TEC COATING COMPANY、以下プロテック社)」に自動車用冷延ハイテンの連続焼鈍設備(CAL)を建設することで2010年12月、USS社と合意しました。これまで神戸製鋼とUSS社は北米マーケットにおいて、プロテック社から自動車用溶融亜鉛めっきハイテンを自動車メーカー各社に供給し、車体下部を中心とした車体軽量化に貢献してきました。車体構造全体をさらに強化するために、車体上部に自動車用冷延ハイテンの採用を拡大したいという日系自動車メーカー等のニーズに対応し、神戸製鋼が日本国内でこれまで培ってきたさまざまなノウハウを北米に展開し、プロテック社を通じて日本国内と同等の品質・機能を有する製品の現地生産化を実現するものです。

鋳鍛鋼 新プレスラインの竣工について

神戸製鋼が2008年4月より進めてきました鋳鍛鋼事業の競争力強化に向けた高砂製作所の新10,000トンプレスライン増設工事が2010年7月に完工しました。新設したプレスは大型長尺品の鍛錬に適した、世界最高速、高精度の性能を保有する世界トップレベルの鍛造プレスであり、クランク軸などの大型船用製品のほぼすべてを製造することが可能となります。今回の増設によりプレス基数は計3基となり、これにより主として船用製品は新プレスおよび4,000トンプレスで、それ以外の大力量を必要とする超大型製品は13,000トンプレスで各々生産するなど、製品サイズに応じた理想的な生産体制を確立しました。



新プレスラインの竣工